

「日本十進分類法」新訂10版 を使いこなそう

小林 康隆
(日本図書館協会 分類委員会)

2018年12月3日(第8回)
2018年度JLA中堅職員ステップアップ研修(1)
領域3:図書館の理解を深めるための関連トピック
日本図書館協会 研修室 15:30-18:00



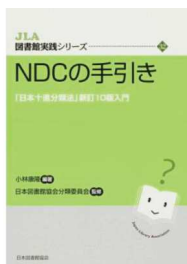
1

【目標】

- ① 「日本十進分類法」(以下, NDC) 新訂10版の主な特徴を理解する
- ② NDC新訂10版による分類作業(分類記号付与)において役に立つ基本的留意事項を理解する



2

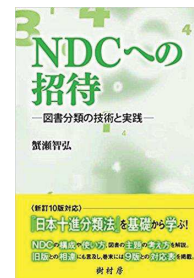


参考文献①

小林康隆編著「NDCの手引き:「日本十進分類法」新訂10版入門」(JLA図書館実践シリーズ 32) 日本図書館協会 2017.4 vii, 208p



3



参考文献②

蟹瀬智弘著「NDCへの招待:図書分類の技術と実践」樹村房 2015.5 293p



4



参考文献③

小西和信・田窪直規編著「情報資源組織演習 改訂」(現代図書館情報学シリーズ 10) 樹村房 2017.3 viv, 263p



5

【目次】

1. はじめに
みなさんが働く図書館での分類作業の状況
2. NDC新訂10版の主な特徴
3. NDC新訂10版による分類作業(分類記号付与)において役に立つ基本的留意事項



6

1. はじめに

みなさんが働く図書館での 分類作業の状況

- ◆ 「分類作業（分類記号付与）
に関するアンケート」
（41名全員より回答）



7

あなたは日本十進分類法（NDC） による分類作業を経験したこと がありますか

1. あります 24 (58.5%)
経験年数:平均5年(6か月~18年)
2. ありません 17(41.5%)



8

新規受入一般図書の分類作業は自 館で行っていますか

1. 自館で行っている 33(80.5%)
（業者などに委託している場合もこちら）
2. 自館で行っていない 8(19.5%)
（本館・中央館など整理を担当する館が
一括して行っている場合はこちら）



9

分類作業を自館で行っている館に おいて、主に誰が分類作業を行っ ていますか（複数回答あり）

1. 主に自館内の職員（臨時・委
託・派遣職員を含む）が行って
いる 14 (42.4%)
2. 主に民間MARC作成機関に委託し
ている 20 (60.6%)
3. 主に外部の整理受託業者に委託
している 2 (6.0%)
4. その他 2 (6.0%)



10

自館の職員が分類作業を行う場合、 外部機関作成の書誌データベース や目録等の分類記号を参考にして いますか（データベース名等は、複数回答可）

1. している 33 (100%)
 - a. NDL-OPAC 24 (72.7%)
 - b. 民間MARC 29 (87.9%)
 - c. 都道府県立図書館OPAC 22 (66.7%)
 - d. NACSIS-CATまたはWebcat 3 (9.1%)
 - e. その他 3 (9.1%)
2. していない 0 (0.0%)



11

参考にしてしている分類記号に修正・ 加工を行っていますか

1. 行っている 32 (97.0%)
（以下は、複数回答可）
 - a. 自館で使用している分類表の版に合わせる 18 (56.3%)
 - b. 桁数を調整する 30 (93.8%)
 - c. 自館の分類基準・実績に合わせる 32 (100%)
 - d. その他 0 (0.0%)
2. 行っていない 1 (3.0%)



12

➤ 新規受入一般図書（和書）に使用している分類表（複数回答可）

- NDC新訂10版 13 (31.7%)
- 1. NDC新訂9版 27 (65.9%)
- 2. NDC新訂8版 11 (26.8%)
- 3. NDC新訂7版 0 (0.0%)
- 4. NDC新訂6版 0 (0.0%)
- 5. その他（郷土分類） 2 (4.9%)



13

➤ 和書の書架分類に桁数の制限を設けていますか

- 1. 設けている 37 (90.2%)
2桁 4館, 3桁 10館, 4桁 19館,
5桁 13館, 6桁 7館
- 2. 設けていない 4 (4.9%)



14

➤ 和書の書誌分類に桁数の制限を設けていますか

- 1. 設けている 14 (34.1%)
2桁 1館, 3桁 2館, 4桁 4館,
5桁 5館, 6桁 2館
- 2. 設けていない 27 (65.9%)



15

➤ 書誌分類を行っている場合、分類重出を行っていますか

- 1. 行っている 14 (34.1%)
- 2. 行っていない 27 (65.9%)



16

➤ 一般補助表の「形式区分」の付加にあたり、細目表の分類記号の桁数に制限を設けていますか（複数回答あり）

- 1. 類（1桁）のみに付加している 0 (0.0%)
- 2. 網（2桁）までに付加している 3 (7.3%)
- 3. 目（3桁）までに付加している 2 (4.9%)
- 4. 4桁までに付加している 10 (24.4%)
- 5. 5桁までに付加している 2 (4.9%)
- 6. 全細目に付加している 1 (2.4%)
- 7. とくに規定していない（必要に応じて付加している） 25 (61.0%)



17

➤ 分類規程を作成していますか

- 1. 自館で作成・維持している 24 (58.5%)
- 2. 作成していない 17 (41.5%)
【内4館は中央館, 1館はTRCの分類基準に準拠】



18

➤ 別置している資料がありますか(複数回答可)

| | |
|--------------|------------|
| 1. レファレンスブック | 35 (85.4%) |
| 2. 大型本 | 31 (75.6%) |
| 3. 児童書 | 32 (78.0%) |
| 4. ヤングアダルト図書 | 30 (73.2%) |
| 5. 漫画コミック | 16 (39.0%) |
| 6. 文庫本 | 32 (78.0%) |
| 7. 新書 | 14 (34.1%) |
| 8. 点字大活字本 | 31 (75.6%) |
| 9. 地域行政資料 | 32 (78.0%) |
| 10. 郷土資料 | 39 (95.1%) |
| 11. その他 | 25 (61.0%) |



19

※ 調査結果から見えてくるもの

- 受講生の58.5%の方が、
分類作業を経験



20

- 分類作業は、自館の業務(80.5%)として位置づけられている

- 外部委託の割合が高い(66.6%)

(自館内の委託・派遣職員などが作業を行っている数を含めると、さらに …)



21

- 外部の書誌DBを参考(100%)

- 分類記号の修正・加工(97.0%)

- ① 桁数を調整(93.8%)
- ② 自館の分類基準・実績に合わせる(100%)



22

- NDCの最新版の利用率の増大

- ① MARCより流用しやすい
- ② 多くの図書館が使用している

➤ NDL, TRCが2017年4月よりNDC新訂10版の適用開始



23

- 書架分類への桁数制限を設けている(90.2%)

- 書誌分類には桁数制限を設けていない(65.9%)

- 分類重出は行わない(65.9%)



24

- 分類規程に基づき分類作業を実施(70.7%)

- 別置については、いろいろと配慮



25

2. NDC新訂10版の主な特徴

2-1 改訂基本方針

- 金中利和「日本十進分類法新訂10版の作成について：JLA分類委員会の改訂方針」
図書館雑誌 98(4) 2004.4
p.218-219



26

(1) NDC9版の改訂方針を踏襲する

- ① NDCの根幹に関わる体系の変更はしない
 - ◆ただし、情報科学(007)と情報工学(548)の統合の可能性を検討する
- ② 書誌分類表をめざす
 - ◆出版点数の多い箇所は、必要に応じて展開する



27

(2) 新主題の追加を行う

BSH4版、NDLSH、新刊書の書名の用語などを参考にして、新しい項目名を追加する



28

(3) 全般にわたって必要な修正・追加などを行う

解説、分類項目、注記、例、補助表、相関索引など、全般にわたって検討を加え、追加・変更・削除などを行う



29

- ① 論理的不整合はできるだけ修正する
- ② 用語の整備
 - ◆新名称への変更、用語の現代化を行い、また、用語の表現(例えばカナ表記)について、整備・統一を図る
- ③ 他のツールの情報の取り込み
 - ◆BSH4版、NDLSHなどの用語・分類記号を適宜取り込む



30

- ④ 分類作業が行いやすく、また利用者にも分かりやすい分類表を目指す

◆ 形式区分、地理区分など含め、補助表の使用基準の明確化を図り、また分類注記、関連索引を充実させる

- ⑤ 細目表と関連索引の用語、分類記号の整合性を図る



31

(4) NDC・MRDF9の本表と関連索引を統合し、分類典拠ファイルを作成する

NDC・MRDF9: NDC・Machine Readable Data File 9 (日本十進分類法 新訂9版 機械可読データファイル)



32

おまけ:

2008年8月25日の刊行を目指す

- ・ NDC第1版が刊行されたのが、1929(昭和4)年の8月25日
- ・ もり・きよし(23歳)の誕生日 (1956年以降に使用した、ペンネーム)
- ・ もり・きよし没後最初に刊行された新訂9版の発行日も、1995(平成7)年の8月25日



33

2-2 改訂の概要

(1) 各類の改訂概要

- 0類: 図書館情報学は、省令科目の再編や新語に対応(2012.4~)「007 情報学」を再編成、5類との別法を充実
- 1類: 心理学、特に精神療法の細分化およびその他の超常現象の新設、ユダヤ教の細分化



34

2類: 国名や自治体名の変更に
対応

3類: 社会状況や制度、名称等の
変化に対応(行政組織、会社法、
教育分野ほか)

4類: 医学分野での用語の現代
化、精神医学の構成の見直し、
基礎歯科学の領域の細分化、
成人看護で各疾患の看護の
細分を可能とした



35

5類: 科学技術の発展に伴う新しい
概念・手法・名称に対応

6類: 流通産業の現代化など産業
構造の変化に対応

7類: 音楽産業やスポーツ産業の
新設ほか

8類: アジアの言語、特に韓国語と
中国語の充実等、各言語の
展開に努めた



36

9類:新訂9版の構成を維持しつつ、
分類項目間の整合性や範囲
の明確化に努め、913.6に明
治以後の時代区分のための
細分注記を追加

- 各分類改訂の全体像については、「1 本表・補助表編」の序説中の「3.3 各分類における改訂の概要」(p.28-29)参照



37

(2) 新設項目 288項目

【第3次区分(要目表)では新設無し】

- ・ 新設項目は、隣接する同位クラスの空き番号を利用した展開(階層関係の表示は、インデクションや「中間見出し」により行う)および下位への分類項目の展開・細区分が



38

(3) 別法の新設 52項目

- ・ 分類記号の移動を伴う全面的な改訂(既設の分類項目の再配置)を極力避けるため、別法を新設
→将来の抜本的な改訂に向けた布石

- 別法の一覧については、「2 相関索引・使用法編」(p.281-287)の「II-2 別法について」を参照



39

(4) 削除項目 55項目

【第3次区分(要目表)では、以下の2か所のみ】

- ① (546 電気鉄道)
516(鉄道工学), 536(運輸工学), 546(電気鉄道)に分かれていた鉄道を、電気鉄道を含む鉄道施設・設備を516に、鉄道車両については536にそれぞれ収め、546(電気鉄道)は削除項目へ
《これにより546に隣接する通信・情報工学分野(547/548)の将来的な拡張に備える》
- ② ([647] みつばち, 昆虫)
646.9(みつばち, 養蜂, 昆虫)との二者択一項目であった647を将来の630(蚕糸業)の移設を見込んで、削除項目へ



40

| | 新設項目 | 別法の新設 | 計 | 削除項目 |
|----|------|-------|-----|------|
| 0類 | 34 | 32 | 66 | 9 |
| 1類 | 19 | 0 | 19 | 1 |
| 2類 | 35 | 1 | 36 | 3 |
| 3類 | 29 | 4 | 33 | 1 |
| 4類 | 11 | 0 | 11 | 0 |
| 5類 | 25 | 13 | 38 | 30 |
| 6類 | 18 | 0 | 18 | 10 |
| 7類 | 9 | 1 | 10 | 1 |
| 8類 | 81 | 0 | 81 | 0 |
| 9類 | 27 | 1 | 28 | 0 |
| 合計 | 288 | 52 | 340 | 55 |



41

改訂の詳細は、以下参照

<日本図書館協会 分類委員会>

<http://www.jla.or.jp/committees/bunrui/tabid/187/Default.aspx>

- ・ 「NDC10版改訂箇所一覧」
- ・ 「NDC10版改訂箇所一覧 付録: 10版新設・削除項目件数等一覧」
- ・ 「NDC10版改訂箇所一覧 補遺」
- ・ 「NDC10版改訂箇所一覧 相関索引編」



42

2-3 判型

A5判 (148×210mm) → **B5判** (182×257mm)

- 1929年の第1版から訂正増補第3版まで **菊版** (152×218mm)
(訂正増補第5版までは、問宮商店刊)
- 1939年の訂正増補第4版以降、以下の版以外は、新訂9版まで **A5判**



43

- 1947年2月の抄録第6版 (明和書院刊) <5版の総表のみの縮写複製> **B6判** (128×182mm)
- 1947年9月の縮刷第7版 (資塚文藝図書館刊) <5版の縮写複製> **B6判**
- 1949年3月の縮刷第8版 (資塚文藝図書館刊) <5版の縮写複製> **B6判**
- 1950年7月・12月の新訂6版 (日本図書館協会刊) <本表篇と索引篇の2分冊> **B5判**
- 1951年7月に新訂6-A版として**A5判**に変更され、新訂9版まで継承



44

※ 判型変更の2つの理由

① 3大ツールの判型の統一

- ・ NCRは1987年版以降 **B5判**
- ・ BSHは第4版 (1999年) 以降 **B5判**

② ページ数減 (物理的使い易さを追求)

- ・ 9版より90p~100p増 (1割ほど、つまり7-8mm厚くなる)が見込まれたので、判型を大きくすることでページ当たりの情報量を増やし、ページ数減を図る
- ・ 相関索引も2段組 → 3段組に変更し、ページ数減を図る



45

2-4 装丁・紙面 (視認性の向上)

- ① 細目表での分類記号検索の利便性向上のため、類ごとに小口見出し(「0 総記」「1 哲学」…、「補助表」)を設置
- ② 第2次区分表(綱目表)の分類項目名を省略せずに記載

例:84 ドイツ語. **その他のゲルマン諸語**
97 イタリア文学. **その他のロマンス文学**



46

- ③ 中間見出しや第2次区分(網レベル)の分類項目がページ末になる場合には、それに付加された注記や参照が見落とされないように、改ページ位置を調整

- ④ 分類項目の階層関係の把握がしやすい全角単位のインデントの採用



47

2-5 名辞の表記

名辞を整備し、新名称への変更や現代化を行うと共に、表記の統一を図る

〈名辞のブラッシュ・アップは、一般に分類項目の改廃につながるものではないが、分類表の水準が端的に表れる部分なので、不断の改善が必要〉



48

- ① 漢字の表記: 今日一般的に用いられる表記を採用

例: 車輛 → 車両; 日蝕 → 日食;
熔接 → 溶接

- ② 外来語の片仮名表記: 今日一般的に用いられる表記を採用

例: デジタル → デジタル; ヴァイオリン → バイオリン; エレベーター → エレベーター

- ・人名には「ヴ」を使用(例: ヴォルテール)
- ・一般性の判断が困難な長音は、これまでの表記を踏襲(例: コンピュータ)



49

2-6 構成

(1) 構成内容の再編

- ① 「1 本表・補助表編」と「2 相関索引・使用法編」の2分冊構成とし、内容を再編



50

- ・ 9版の「解説」を「序説」と「使用法」に二分し、「序説」は若干簡潔にし、かねてから要望されていた「使用法」を充実
- ・ 「序説」「使用法」に9版には無かった目次を整備



51

※「序説」

- ・ 主題組織化および分類法の一般的な特徴を簡潔かつ論理的に紹介し、NDCの成り立ちと構成を解説し、新訂10版の主要な改訂内容について説明



52

※「使用法」

- ・ これまで分散していた説明をここに集中し、NDCを使用する際の基本的な事項についての解説を充実させ、分類作業の具体的な指針として使い易く再編集
- ・ 各館に共通する「I NDCの一般的な適用とについて」と「II NDCの各館での適用について」の2つにわける



53

I NDCの一般的な適用について

主題分析の方法、主題の構造、主題の種類、主題概念と形式概念の区別、分類規程、番号構築、相関索引の活用法などを解説

- 分類規程は、従来書架分類のための指針とされてきたが、著作の主題情報について分析的、合理的に明確するための基準とみなし、書架分類はそこで得られた分類記号から、個別資料の配架のために最も適切なものを選ぶという考え方に変更



54

II NDCの各館の適用について

簡略分類と詳細分類，別法，館種別適用，分類配架，別置などを解説



55

② 分類付与作業における実務上の利便性を考慮し，第1分冊と第2分冊の役割を明確化

- 第1分冊:分類付与作業に使用するツール
- 第2分冊:実務初心者，初学者が必要な際に参照する，第1分冊の補助的・支援的ツール



56

(2) 「各類概説」の独立

学問分野や主類の概説に留まることのないよう全面的に内容を再検討し，各類の構造をわかりやすく解説し，実際の分類に参考となるような説明を加える

- 例えば，区分特性が明確な類では，それを明示し，明確でない類では，その独特な構造を解説し，分類の方法や区分の優先順序にも触れる



57

(3) 補助表の再編と適用基準の明確化

一般補助表と固有補助表の区別を明確にし，再編し，両者を「本表・補助表編」に一括掲載(使用する表として)

- 一般補助表(3種4表):
細目表の全分野、あるいは部分的であっても二つ以上の類で共通に適用可能な補助表
- 固有補助表(10種):
一つの類またはその一部でのみ共通に適用可能な補助表



58

主な変更点

- ① 言語共通区分と文学共通区分を固有補助表へ移設
- ② 日本史における沖縄を除く地方史の時代区分を可能にする固有補助表を新設



59

(4) 「関連索引」の拡充

- ① 分類項目の新設等に伴う新索引語の追加および本表改訂に伴う索引語の修正(歴史性を考慮し，旧索引語も残す)
 - ② 細目表からの索引語収録の拡充
 - ③ BSHからの索引語取り込みの拡充(必要に応じてNDLSHも)
- 索引登録件数:33,367件(約4,000件:約13%)の増加



60

(5) 「用語解説」の新設

広く分類法に関する専門用語を50音順に収録し、その定義、概念、範囲等に関し、NDCでの理解に資するよう簡明に解説



61

(6) 「事項索引」の新設

序説、各類概説、各表の凡例、使用法および用語解説に現れる、NDCの理解とその運用に関して重要な内容と考えられる用語等を適宜確認、参照できるように用意



62

2-7 主題検索ツール

NDCが、主題検索のツールとしての役割を果たすことに向け、書誌分類法としての要件を備えることをめざす

- ① 分類規程を著作の主題情報を分析的・合理的に明確にするための基準とみなし、主題が複数ある場合には、分類重出の検討を推奨



63

- ② 論理的不整合はできるだけ修正すると共に分類項目の新設にあたっては、論理・階層構造に破綻をきたさぬよう留意
- ③ 注記の種類を整理し、類型化および充実を図る
- ④ 次版以降での抜本的改訂に向けた布石ともなる別法注記を増やす



64

2-8 「情報学および関連領域」の整理

情報科学(007)と情報工学(548)の統合について検討したが、記号的な統合よりも「概念(観点)の明確化」により区分する考え方を採用



65

- ① 情報学は学際的な分野であり、従来NDCが定義するところの情報科学、情報工学、社会情報学や応用情報学の上位概念と捉え、情報学一般 → 007 に位置づける
- ② 主題分野を限定しない社会的な観点(情報ネットワークやその利用、社会的な関わり等)に関するもの → 007.3 を中心に位置づける



66

- ③ 工学・技術的な観点(機器設計や作成, 操作解説, 敷設等)に関するもの → 547/548 に収める
- ④ 産業・経営・事業に関する観点(各種事業者に関するものやその歴史的経緯等)に関するもの → 694 に収める



67

統合を望む図書館用に別法を用意

- 観点を明確にすることに加え, 007と548のどちらかに関連図書を集中させることができるよう, 007の下に548に対応する**別法**:007.8を追加
- 情報学に関連する547.48を収める**別法**:007.9を追加



68

3. NDC新訂10版による分類作業(分類記号付与)において役に立つ基本的留意事項



69

3-1 主題分析の方法

(1) 要約法

- 著作(work)の全体的な主題に目を向け, 著作の中心的主題に絞って, それを一つの句または文に要約する
- 図書館での主題分析には, 要約法を用いるのが一般的である



70

(2) 網羅的索引法

- 著作の中心主題にとどまらず, 副次的あるいは周辺主題までを網羅的に拾い上げ, それぞれを一つの句または文に要約する
- 多数個の主題を何らかの規則に従って合成するのは困難である → 通常, それぞれを独立したものと捉える



71

要約法と網羅的索引法の対比

「花粉症：対策と治療法」

花粉症とはどんな病気か, その発症要因, 治療のために大切なことなど, **花粉症全般**について説明している

→ 要約主題：花粉症

∴ 493.14 アレルギー性疾患. 膠原病. 体質異常

→ 網羅的主题：大気汚染や造林政策(杉の植林)にも触れているならば, これらをも拾い上げる

∴ 519.3 大気汚染

∴ 653.6 針葉樹:まつ, すぎ, まき, ひのき



72

3-2 索引語決定の方法

(1) 付与索引法

- あらかじめ設定されている語彙表(例:分類表)の中から最も適切に著作の主題を表すもの(例:分類記号)を選んで索引語として付与する方法



73

(2) 抽出索引法

- 著作のタイトルや本文中に出現する語の中から適切に主題を表すものを抽出して、そのまま索引語として使用する方法

→ 究極的には、「全文検索」



74

3-3 主題の構成概念

主題の基本構成要素:

★学問分野 - 事象 - 形式

例:『病気の医学事典』

この図書の主題の構成要素は、
医学 - 疾患 - 事典と図式化される

- ▶ 分類作業の第一ステップ: どの学問分野に属する著作か (to which area of knowledge the work *belongs*) を突き止めること



75

(1) 学問分野

- 経済学, 教育学, 数学, 電気工学, … 体系的な知識分野

- ▶ NDCは、主に19世紀後半に独自の研究対象・方法論を持ち確立した、伝統的でアカデミックな知識分野に準拠している
- ▶ これは学校教育の中で教えられ、私たちみんなが知っている



76

(2) 事象あるいは主題概念

- その著作が何について述べているか (what the work is *about*) を表す = 主題概念
- 同じ事象を複数の学問分野が取り扱うこともある

例: 事象が「牛」の場合

動物学の「牛」なら NDC:489.85

畜産学の「牛」なら NDC:645.3

※では、「原色図説世界の牛」内藤元男著は?



77

(3) 形式

- 形式となる概念は、その著作が何であるか (what the work *is*) を表す
 - NDC新訂10版では、一般補助表の「I 形式区分」に必要とされるものが用意されている
- ① 叙述形式
 - ② 編集・出版形式



78

① 叙述形式

どんな形式で内容が展開されているか（論述の展開）

② 編集・出版形式

どんな形式で編集・出版されているか（編集の方法・出版の形態）



79

3-4 主題の種類

(1) 基礎主題

学問分野自体が単独で主題となる

例：「経済学」

この図書は、経済学とはどのような学問（分野）であるかを概説

∴ 図式：経済学 - 事象なし - 形式なし



80

(2) 単一主題

基礎主題とその学問分野における**1種類**のファセット（事象のグループ）中のフォーカス（メンバー）で構成される主題



81

ファセット

ファセットとは、各学問において取り扱う事象を共通する特性に基づいて区分けしたメンバーのグループをいう

➢ 例えば学問分野「医学」には、患者、部位・器官、疾患、治療、医薬品・医療機器のファセットがあり、これらのもとに事象がまとめられる



82

フォーカス

ファセット中の各メンバーをフォーカスという

- 例えば「疾患」のファセットには、結核、腫瘍、糖尿病、コレラ、…などのフォーカスがある
- フォーカスの数が多い場合には、共通の特性を有するものをまとめ、サブファセットを作ることがある
例えば、結核、肺炎、気管支炎、喘息、…など → 「呼吸器疾患」



83

単一主題の例

「結核読本」

この図書は、医学 - 疾患（結核）と図式化される

→ 1種類のファセット（疾患）中のフォーカスの一つ（結核）を取り扱った単一主題である



84

(3) 複合主題

基礎主題とその学問分野における**2種類以上**のファセット中の各フォーカスで構成される主題



85

複合主題の例

『胃がん化学療法』

この図書は、医学 - 器官（胃） - 疾患（腫瘍） - 治療（化学療法）と図式化される

→ 3種類のファセット（器官，疾患，治療）中の各フォーカス（胃，腫瘍，化学療法）を取り扱った複合主題である



86

(4) 混合主題

基礎主題，単一主題，複合主題のように通常は独立している主題が，それぞれの性質を保持しながら相互に結びついた主題

➢ 主題間の**関係性**を分析する必要がある



87

混合主題の例

『キリスト教と仏教の対比』

この図書は，宗教 - 各宗教（キリスト教） - 【比較関係】 - 各宗教（仏教）と図式化される

→ 単一主題（各宗教ファセット中のフォーカスの一つ）同士であるキリスト教と仏教を比較している



88

主題間の関係の取り扱い方

➢ NDC新訂10版では，以下の7つの関係の取り扱い方が分類規程「主題と主題との関連」で説明されている

- ① 影響関係
- ② 因果関係
- ③ 概念の上下関係
- ④ 比較関係
- ⑤ 主題と材料
- ⑥ 理論と応用
- ⑦ 主題と目的



89

(5) 複数主題

独立した複数の主題が，一つの文献中で相互作用なしに並列されている



90

複数主題の例

『コマツナ・シュンギク・キャベツ・ハクサイ』

この図書は、農業 - 園芸 - 蔬菜
園芸 - 葉菜類 - コマツナ - 【並立】 - シュンギク - 【並立】 - キャベツ - 【並立】 - ハクサイと図式化される

- NDC新訂10版では、複数主題の取り扱い方が分類規程「複数主題」で説明されている



91

(6) 総合的・包括的主题

学問分野と事象を特定できない、総合的・包括的主题(例:百科事典, 総合年鑑, 総合目録, …など)の場合は, 形式によって組織化を行う

学問分野なし - 事象なし - 形式と図式化される

- こうした図書に対応するため, NDCは総記クラス「0類」を用意



92

3-5 主な分類規程

(1) 主題の観点(≒学問分野)

まず主題の観点を明確にし, 細目表のその観点の下にある主題の分類項目を選択する

◆ 分散関連事項

主題が「牛」の場合の例を思い出すと
動物学の「牛」なら NDC: 489.85
畜産学の「牛」なら NDC: 645.3



93

(2) 主題と形式概念の区別

- ① まず細目表よりその主題を最も詳細・的確に表す分類項目を選択し, その分類記号を付加
- ② 次に必要ならば, その主題を表現する叙述形式または編集・出版形式を示す記号を形式区分から選択し, 主題の分類記号に付加



94

◆ 主題を優先する原則の例外:

- 想像に基づく著作(芸術作品, 文学作品)
 - ・ 芸術 - 表現形式 - 様式, 材料・技法 - 形式区分
 - ・ 文学 - 言語区分 - 文学共通区分 - (時代) - 形式区分
- 総記クラスの著作



95

◆ 漫画, 絵本, 写真集などの取り扱い:

- 芸術作品としての漫画, 絵本, 写真集などは, 主題ではなくその表現形式で分類する
- 特定の主題を説明する手段として漫画, 絵本, 写真集などの表現形式を採っているものは, その主題に分類する



96

3-6 番号構築の特徴が明確な類

2類

① 歴史

歴史 + 地理区分 + 時代 + 形式区分

例:『平安時代史事典』古代学協会編
この図書は, 2(歴史) + -1(地理区分:日本) + -036(時代:平安時代) + -033(形式区分:辞典) → 210.36033 と分類される



97

時代の限定なし

歴史 + 地理区分 + 「0」 + 形式区分

例:『岩波日本史辞典』石上英一[ほか]編
この図書は, 2(歴史) + -1(地理区分:日本) + -033(形式区分:辞典) → ~~210.33~~
ではなく,
2(歴史) + -1(地理区分:日本) + -033(時代:飛鳥時代)とのバッティングを避けるための「0」 + -033(辞典) → 210.033 と分類される



98

世界史は、例外なので注意！

形式区分のみを付加する場合：

歴史 + 形式区分

例:『角川世界史辞典』西川正雄[ほか]編
この図書は, 2(歴史) + -033(形式区分:辞典) → 203.3 と分類される

歴史の区分特性の原則通りなら,
歴史 + 「0」 + 形式区分

例:『角川世界史辞典』西川正雄[ほか]編
この図書は, 2(歴史) + 「0」 + -033(辞典) → ~~200.33~~ と分類されるはずだが、...



99

世界史：時代の限定がある場合：

世界史 + 時代

例:『図説大航海時代』増田義郎著
この図書は, 209(世界史.文化史)の下の.5(時代:近代)を選択し, → 209.5 と分類される

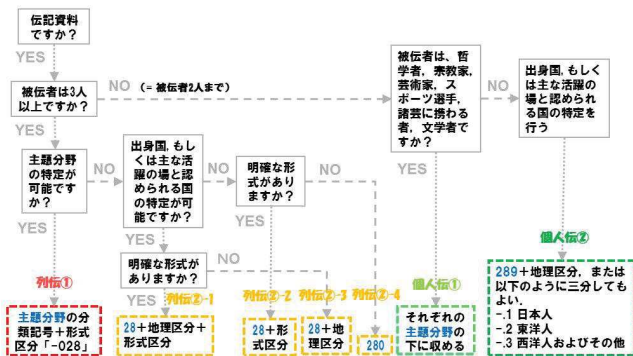
歴史の区分特性の原則通りなら,
歴史 + 時代

例:『図説大航海時代』増田義郎著
この図書は, 2(歴史) + -05(時代:近代) → ~~205~~ と分類されるはずだが、...



100

② 伝記



伝記資料の例：

列伝①

例:『面白すぎる天才科学者たち』
内田麻里香著

この図書は, 4(自然科学) + -028(形式区分:多数人の伝記) → 402.8 と分類される



102

ただし、国の限定がある**芸術家の
列伝**は、**例外扱い**となる

例:『フランスの音楽の11人:グノー
からドビュッシーへ』R.ピトルー著

この図書は、762(音楽史.各国の音楽)+
-35(地理区分:フランス)→**762.35**と分類
される(×762.8)

- ◆ 762(音楽史.各国の音楽)は、本来ならば、76(音楽)+-02(形式区分:歴史的・地域的論述)→760.2となるのだが、760の下に形式区分-02の「0」を短縮する旨の指示があるので、76+2→762となった分類項目である



103

列伝②

例1:『日本人物レファレンス事典』

この図書は、28(伝記)+-1(地理区分:日本)+-033(形式区分:事典)→**281.033**と分類される

例2:『岩波世界人名大辞典』

この図書は、28(伝記)+-033(形式区分:辞典)→**280.33**と分類される



104

例3:『無私の日本人』磯田道史著

この図書は、28(伝記)+-1(地理区分:日本)→**281**と分類される

例4:『現代の礎を作った人々』稲垣純[ほか]著

この図書は、細目表より280(伝記)を選択し、
→**280**と分類される



105

個人伝①

- 哲学者 《哲学の下へ》
- 宗教家 《宗教の下へ》
- 芸術家 《芸術の下へ》
- スポーツ選手 《スポーツ、体育の下へ》
- 諸芸に携わる者 《諸芸、娯楽の下へ》
- 文学者 《文学の下へ》



106

個人伝②

例:『マッカーサー』増田弘著

この図書は、289(個人伝記)+-53(地理区分:アメリカ合衆国)→**289.53**と分類される

あるいは、289(個人伝記)+.3(西洋人およびその他)→**289.3**と分類される



107

③ 地理・地誌・紀行

地理・地誌・紀行+地理区分+
固有補助表 5)・形式区分

例:『京都こだわり街歩き』中島克幸著

この図書は、29(地理・地誌・紀行)+-162(地理区分:京都)+-093(固有補助表 5):案内記)→291.62093と分類される



108

国・地域の限定なし(世界)

細目表の地理・地誌・紀行の下へ

例:『安心して楽しめるはじめての海外旅行』

この図書は, 細目表の290(地理・地誌・紀行)の下より .93(旅行案内記)を選択
→ 290.93 と分類される



109

8類

言語 + 言語区分 + 言語共通区分 + 形式区分

例:『新英文法辞典』大塚高信編

この図書は, 8(言語) + -3(言語区分:英語) + -5(言語共通区分:文法) + -033(形式区分:辞典) → 835.033 と分類される



110

9類

文学 + 言語区分 + 文学共通区分 + (時代) + 形式区分

例:『日本秀歌秀句の辞典』

この図書は, 9(文学) + -1(言語区分:日本語) + -1(言語共通区分:詩歌) + -033(形式区分:辞典) → 911.033 と分類される

➤ 時代は, 時代を示す分類項目が細目表に用意されている場合および時代区分を行う旨の注記がある場合に表現可能となる



111

3-7 その他

• 補助表を使いこなす

特に形式区分の適用については, 以下に注意!

- ① 細目表に列挙表示されている場合
- ② ほぼ全体

• 凡例を読むことを忘れずに!



112